



そうだ！ 田舎にくらそう 2017

元・川西町地域的こし協力隊の6年後の再訪。
企画・構成・文・撮影etc... 主催：漆貴隆
イラスト・モデル：宇野浩二（元・川西町長）

「山下清」展

とうとう、仙台で山下清展に行きました。全国で定期的開催されていますが、山形から行けそうな場所で開催されたのは2回目です。1回目は逃しました。。。『裸の大将』で有名なTVドラマを子供の頃から観ていました。それだけでなく、日記やレプリカ、DVD-boxにいたるまで、様々、所持していますが、やっぱり本物を見ると違いますねー。超満足です。さらにトークショーも参加。甥（山下清の弟の息子）にあたる方のトークショーは超満足。人の話を1時間以上集中して聞いたのは初めてではないでしょうか？（笑）サイコーだな。ホント。サイコーだ。

「ありがとう、山下清」

先日、「幸せボンビーガール」という番組を観ていたら、小国の風景が映って、何か見たことある家だなと思ったら、協力隊の同期だった友達が出演していました（笑）とうとう、小国まで取材に来るとは！と少し驚きました。

もうひとつ、とうとう、山下清展に行きました。僕にとっては「山下清」は、アイコンのような存在です。イヤーホントによかった。そして、適当に7日に行ったのですが、何と、その日は甥の山下浩さんのトークショーがありました。ひきつけたんでしょう。。。偶然すぎます。何かもってるんです。

それにしても、死後40年以上たっても人気のある人物というのはすごいんですね。何が人をひきつけるんでしょうか？個人的に考えてみました。

ひとつは、TVドラマ「裸の大将」のイメージです。あんな風に生きれたらいいなという願望が、イメージが一致するのでしょうか。もうひとつは、何かしらに特化した才能があるということです。誰でも自分らしさを追い求めてはいないでしょうか？きっと心の奥底では個として存在したいという欲求があるのだと思います。（特に男）

というのが一般的な意見かもしれませんが、僕は何で好きなのかという。。。んー。。。雰囲気（笑）まず、きっかけはドラマです。毎回、テーマ曲が流れて、今回の旅の舞台が紹介されて（テロップ白字←これ、昭和らしさのため重要！）、日本の観光地や有名な場所が映る。これだけでもワクワクします。それで、あの雰囲気で素朴な質問を、現地の人に投げかけるのです。「いも煮はいも以外もたくさん入っているのに、何でも煮って言うのかな？」という感じの（笑）まず、子どもながらに、ここに共感するわけです。そして、地元の人と仲良くなり、仕事をして、マスコミなどが探しに来ると、御礼に絵を描いて過ぎ去っていく。。。という定番の展開なんですが、何度観てもおもしろいですね（笑）実際はそうではないんですけど。見た目が怪しい？というより、旅人だからあやしいのか、お金を持っていると、盗んだと言われるシーンは覚えているのですが、これは本当の話だそうです。肉声の音声も聞きました。要は小銭集めて銀行でお札にしてもらったのに、お札を持っていると盗んだと警察に言いがかりをつけられて、盗んでないのにおかしいというやりとりです。吃音のためか、はなし方から疑われてしまうわけですが、何でこんな差別的なことを大人はするんだろうなーと子どもの時から思っていました。

つまりは、素直さに共感したのだと思います。貼り絵も好きでしたが、空の背景を色でグラデーションを表現することは難しいけれど、貼り絵だと細かい紙がたくさん貼ってあり、なるほどと。。。独自の表現方法があることに興味があるのでしょうか。いつまでも、自分の方法で表現する姿勢がよかったのかな。

トークショーを聞くと、実際の山下清はドラマで描かれた人物像と違うということでした。これはテレビ用に作られたフィクションなので当然といえば当然なのですが、しかし、僕は、そのフィクションを観て、多くの人が山下清という人物に思いを寄せることができ、没後40年以上たっても多くの人の共感を得るということは、作品表現として素晴らしいと思いました。実際の山下清のビデオを観ても、何かに集中したり、作業風景は、一所懸命さが伝わるもので、ドラマでも絵に対する思いは真剣に描かれているので、その部分が伝わったのだとおもいます。

旅というのは辛いイメージがあるけれど、山あり谷ありの人生を表現した「ドラマ」としては、「裸の大将」はやっぱり名作なんだな。（←この終り方をたまにしてしまうのは、ドラマの影響ではないか？と気付きはじめ。。。た）